

編集後記

本誌創刊以来の編集顧問であった水野祥太郎先生の計は先月号の編集後記で既に報じたが、今月号には砂原先生が専門領域を異にする同世代の友人としての弔辞を、川村氏が門下生としての弔辞を寄せられた。夫々の御立場での哀惜の想いが、読む者の心にせつせつと伝わってくる。謹んで水野先生の御冥福を祈る次第である。

今月の特集は「物理療法」である。リハビリテーション医学は本来、物理療法学の基礎の上に発展したのである。アメリカのリハビリテーション医学会の名称の変遷を辿ればそれは一目瞭然であり、現在の American Congress of Rehabilitation Medicine は、1925 年から 1945 年までの間は、American Congress of Physical Therapy と称していたのであった。しかし、物理療法学は医学の他の領域の進歩に比していささかとり残された感があり、今ではリハ医学の中で脇役的存在であるといえよう。だが脇役なりにこの際、物理療法の見直しをすることは意義あることであろう。

まず福井氏は、「物理療法最近の動向」と題して、電気刺激療法・温熱寒湿療法等に関するトピックスを紹介し、今村氏は「埋め込み電極刺激による麻痺筋駆動について」の展望を、自らの経験を基にして述べられた。橋本氏らは、「慢性関節リウマチの極低温運動

療法」について、客観的に検討した結果、著効が得られたことを報告しているが、これは従来、創始者山内氏の吹く笛に踊ろうとしなかった多くのリウマチ医達に対する大きなインパクトになることであろう。阿岸氏は、「水中運動の生理と臨床応用」と題して、水中安静時および水中運動時の生体反応について述べられた。以上四氏の論文はいずれも現在の物理療法に関する先端的知見を紹介されたものであり、極めて興味深い。

巻頭言で佐藤氏は、わが国では義足の軽量化に関してややおくれている点と、義手が欧米に比してコストが安すぎる点を指摘された。

講座は今月から、「合併症の障害学」と「言語障害の評価」の 2 本が登場した。いずれも 6 カ月にわたり連載の予定である。

印象記として、南氏は横浜で土屋弘吉会長の下で行われた第 7 回リハ交流セミナーの模様を報告している。有意義な会であり、非常に盛会であった。一方、学会報告として鶴山氏は第 21 回九州リハ医学懇話会の演題抄録を載せておられるが、この会も関東地方リハ医学懇話会とならんで、日本リハ医学会の地方的存在としての足場が固まった様子がうかがえ、大変結構なことと思われる。

(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
加 倉 井 周 一
賀 集 竹 子
河 邨 文 一 郎
小 島 蓉 子
五 味 重 春
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 田 玲 子
高 橋 勇
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歆
橋 倉 一 裕
長 谷 川 恒 雄
林 玉 子
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告 (第12巻 第8号)

特 集	関連職種教育	
	理学療法士卒前教育の問題点……………川崎医大リハ OT の教育：教育の現状と MD, PT	古 米 幸 好・他
卷 頭 言	からの期待……………横市大リハ	大 川 嗣 雄・他
	義肢装具士の教育……………国立リハセンター	初 山 泰 弘
研究と報告	福祉ヘルパーの職業訓練：病・老人の介護の職を	
	めぐる問題……………神奈川県立紅葉ヶ丘女子高等職業訓練校	宰 田 満 里 子
症 例 報 告	医療ソーシャルワーカーの教育：リハビリテーション	
	領域の業務とその教育について……………熊本託麻合病院	齊 場 三 十 四
講 座	リハビリテーションは五重の塔……………北里大・整形外科	田 島 規 子
	悪性腫瘍による下肢切断患者の義肢装着	
一 頁 講 座	について……………金沢大・整形外科	井 上 昭・他
	脳性麻痺における筋緊張の加齢的变化に関する	
講 座	誘発筋電図学的考察……………聖ヨゼフ病院	黒 坂 ふ み よ・他
	下肢切断を合併した片麻痺患者の	
講 座	リハビリテーション……………慶大	永 田 雅 章・他
	合併症の障害学 2：脊髄損傷の合併症	
一 頁 講 座	(その 1：異所性骨化と褥創について)……………東海大	石 田 暉
	言語障害の評価 2：脳性麻痺 (小児)	
一 頁 講 座	……………北九州市総合療育センター	鹽 永 淳 子
	人工関節 8：膝 (2)……………慶大・整形外科	伊 勢 亀 富 士 朗
(編集頁の都合等により掲載が若干変更になることがあります。編集室)		